

授 業 科 目 名		授 業 時 間
環境とリサイクルに関する法および規制		3
担 当 講 師 名	所 属	
津村 守	津村コンサルタンツ事務所	
<p>授業の目的</p> <p>サステナビリティ（人間・社会・地球環境"の持続可能な発展）のうち環境保護やリサイクル事業に関連する法規について学ぶ。基準値の成り立ち、環境基本法・循環型社会形成基本法などの基本法、大気汚染防止法・水質汚濁防止法などの個別法、自治体条例との関連を理解する。廃棄物処理法や容器包装リサイクル法についてはリサイクル事業との関係から現状と問題点を探り、全員で討議してまとめる。最後に、循環型社会の形成に関するグローバルな課題と行政の取組みを理解する。</p>		
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 基準値の成り立ちをリスク管理の側面から学ぶ。</li> <li>2) 環境・リサイクルに関連する環境関連法規の概要について学ぶ。</li> <li>3) 法律以外の規制・取組みについて、EUを例からRoHS指令、REACH提案規則、国連サミットのSDGsなどを学ぶ。</li> <li>4) 循環型社会形成構築に係る今後の課題を考える。</li> </ol> <p>なお、この科目は「実務家教員や実務家による授業」に該当します。</p>		
<p>受講生の達成目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 環境関連法規の基準値の意味、それぞれの法律を説明できる。</li> <li>2) 環境・リサイクル事業に係わる法規制を理解し、循環型社会の構築に欠かせないリサイクル法規を詳細に理解する。</li> <li>3) 循環型社会を形成し継続するに当たって、その現状と課題を理解する。</li> </ol>		
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>講義内容に沿って、演習、レポート、小テストなどを課し、総合的な達成度の評価を行う。</p> <p>各種課題、レポートなどを総合評価し、60%以上の達成度で合格とする。</p>		
<p>教科書・参考書</p> <p>教科書は用いず、配付資料等により授業を進める。</p> <p>参考書：「新・よくわかる ISO 環境法改訂第 17 版」鈴木敏央著(ダイヤモンド社)；「環境リスク学」中西準子著(日本評論社)；「演習環境リスクを計算する」中西準子他著(岩波書店)；「SDGs」南 博, 稲場 雅紀著 (岩波書店)</p>		